

## LPG混焼トラック開発

# 構改補助受け拍車

まー  
るエナジ  
だ

だるまエナジー（本社  
・東京、古田洋二社長）  
と城東自動車工場（同、  
鈴木啓一社長）は、昨年

度に続き今年度もデュアル  
フルフューエルトラックの  
開発で国の構造改善支援  
事業に採択された。昨年  
度は技術実証とPR事業  
にとどまったが、今年度  
は4トトラックを使い実  
用化に乗り出す。初期投  
資を1〜2年内に回収で  
きる性能実現が目標。実  
現すればトラック事業者  
の燃費改善はもちろん、  
オートガス需要増、自動  
車燃料の多様化にも大き

く貢献する。この技術は  
国の関連審議会の報告書  
にも盛り込まれ、期待や  
認知度を高めている。

デュアルフルフューエル  
トラックは、ディーゼルト  
ラックの軽油燃料にLP  
ガスを混ぜ、ディーゼル  
エンジンで燃焼させるも  
の。メーカー車を改造す  
る費用がかかるが、軽油  
よりもLPガスの方が安  
価なためランニングメリ  
ットで初期費用を回収す  
る。できるだけLPガス  
の割合を高める技術の開  
発、改造費低減と改造シ  
ステムの耐久・信頼性が

平成27年8月17日(月)

プロパン・ブタンニュース 掲載

カギとなる。走行距離が  
長いほどメリットが出や  
すいため、ユーザー層や  
車種も重要な要素だ。

昨年度の構造改善支援  
事業では、比較的小型の  
2トトラックを用いた。  
混焼技術は、海外で船舶  
用エンジンなどに使われ  
ている。この技術が排ガ  
ス規制に対応した最新デ  
ィーゼルトラックに応用  
できるかが注目された  
が、無事に実証を終え、  
2月には都内の自動車学  
校で関係者らを招いて試  
乗会も開いた。  
昨年度の段階でLPガ

割合を約5割まで高め  
られることが分かった。  
今年度は高速長距離走行  
されることが多い4トト  
ラックを対象に絞って実  
証を進める。混焼化によ  
る環境性能改善効果も、  
2トより4トトラックの  
方が大きいとみている。

だるまエナジーなどは  
今後の実証テストやPR  
活動で、日本LPガス協  
会や都道府県LPガス協  
会と連携を図りたい考  
え。自動車用燃料の多様  
化の観点から、国土強韌  
化関係でもLPG車の有  
用性をアピールする。